



視察団が驚嘆した、豊かな森林に囲まれたつづら棚田の風景



フィリピン・バナウェ市から訪れた視察団



現地では盛んな意見交換が行われた。



視察中もさまざまな質問が相次いだ。

イーサポートリンクが挑む アジアの農業の持続的成長

農業の持続的成長には何が必要か。
イーサポートリンク株式会社(本社・東京)は
情報システム企業として農産物流通の効率化を通じ、
日本の農業の支援に取り組んでいる。
その活動は今、フィリピンをはじめ東南アジアへと、
グローバルな農業支援に広がっている。

（生産者と生活者を結び、
日本の農業を支援）

イーサポートリンクは「全ては生活者と生産者のために」を経営理念に、農業の発展と成長を支援することを目的とした企業だ。

その主力となる事業は、生鮮青果物の流通過程をトータルサポートする「流通管理」というビジネスモデル。生産者から商社や中間流通業者、量販店までのサプライチェーンを二元管理し、システムと業務受託で支援する。農産物の流通ロスを減らし、付加価値を高める販売支援サービスとして、すでに多くの流通大手や食品業界に活用されている。

また、栽培履歴管理システム「農場物語」は、農地単位で農家の生産工程や農薬・肥料の記録をデータ化し、農地の管理、生産する青果物の安全性を支援。同社の事業の柱として個別の生産者支援に役立つ。

IT(情報技術)によって生産者をビジネス面からサポートするだけでなく、消費者にとって新鮮かつ安心な食の流通を支援する形で、日本の農業振興に特化しているのが同社の大きな特徴だ。

（海外でも認知が広まる
農産物流通IT）

こうした国内での実績から、同社は2013年に国際協力機構(JICA)に協力し、フィリピンにおける農産物流通ITを導入する事業を開始。青果物の効率的な販売システムにより、生産者の所得向上、農業の発展に貢献する企業として、フィリピン農業省や農地改革省の推薦を受けるなど高く評価され、同国でも同社のオリジナルシステムが稼働中だ。

今回、イーサポートリンクはフィリピン・ケン市の農業資材企業からの依頼を受け、日本の棚田の視察を企画・サポートした。8月下旬に、世界遺産の



視察団が訪れた九州の棚田

棚田を管理するバナウェ市から九州を訪れた約30人の視察団に、豊かな里山の原風景と共にある日本の棚田を紹介した。
バナウェ市は世界遺産の棚田を農業だけでなく観光資源としてもしているが、後継者不足や耕作放棄地の増加が大きな課題となり、その再生・保全が急務だ。
視察を終えたバナウェ市のダリボック市長は、「日本の棚田を取り巻く森林保全やかんがい設備などのシステムマッチな営農方法や、産学連携、棚田オーナー制度など生産者以外を巻き込む仕組みづくりを参考に施策を講じたい」と感想を述べた。

（新興国の農業発展に寄与する「農場物語」の可能性）
たとえば、イーサポートリンクの「農場物語」によって生産管理を行えば、これまで自然の恵みに頼ってきたバナウェ市の棚田の営農方法は、計画的な作付けと施肥などにより生産性が向上、生産者の収入が増え、農業振興が実現可能になる。さらに、棚田の保全による世界有数の景観保持と市民の生活の持続性、そしてアグリビジネス振興による市の経済発展の持続性につながっていくだろう。

同社は、「当社の生産管理と流通管理システムを活用し、フィリピンの世界的な農業遺産である棚田の維持・発展に貢献したい。さらにその試みを新興国における課題解決のモデルケースとして、他の東南アジア各国でもグローバルに展開していきたい」と語っている。

広告

企画・制作=日本経済新聞社クロスメディア営業局

イーサポートリンク株式会社 <http://www.e-supportlink.com/>